

## 早稲田大学 基幹/創造/先進理工学部 英語 講評

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問は昨年同様で、分量的にもほぼ変わらずであった。レベルは昨年よりやや易化したと言える。理工学部らしく、数学や論理学などをテーマにしたものが頻出。英文の内容は相変わらず非常に難しい。設問も論理的思考能力を問うものが圧倒的だ。Vは昨年同様単語の定義問題のみだった。単語を選ばせるのではなく、アルファベットに相当する数字に変換しなければならない問題。受験する側にとっては面倒だが、理工学部には何か意図があるのだろう。受験生として少しでも慣れておくといい。試験時間については、他の学部もそうだが、時間内で終わらせるのは並大抵ではない。同じ試験時間という意味では特に法学部や社会科学部も大変だが、問題量と読解問題の内容の抽象度を加味すると、今年度も早稲田の中で最も難しい問題と言えよう。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	長文読解問題	分量、難易度とも昨年並みか。問題文の抽象度は早稲田の中で随一であろう。設問形式は理工学部特有のものが多い。According to the global-focal search model, the two-stage detection model, and the chunking template theory, which of the following is the main cause of the difference between experts' and novices' perception of medical images? のような設問が中心だ。抽象度が高いのは問題文だけではない。呆れるほどの難しさだ。また、一つの文章で成り立っているのではなく、3つのTextから成り立っているのも理工学部の特徴だ。それが設問でつながっているのだ。とにかく、論理的に推論させることを意識しているのは確かである。入試問題としては難問であり、抽象的すぎて問題文が何を言っているのかわからず、正解もまったく見当がつかないことも多々あると思われる。	難
II	語整序問題	レベルは昨年よりやや易化したと言える。13行ほどの文章の一部を並び替えさせる語整序問題。理工学部のこの整序問題は、例年は選択肢に接続詞や関係詞が含まれ、節の意識が重要であり、選択肢の前後との構造を把握することが重要となる。ただ、今年度は昨年同様節を含むものは少なかった。昨年はand、今年度はwhileが含まれていた。今年度は品詞と語法がポイントのものが多かった印象だ。また、整序問題は解けないと焦ってしまう。一度焦ってしまうと試験時間内に平常心を取りもどすのは至難の業だ。わからない問題はそのままにして先に進めるくらいの気持ちで臨むといいだろう。	標準
III	語補充問題、 文整序問題	Section Aは文章の中の語補充問題、Section Bは文整序問題。前者は昨年並み、後者はやや易化した印象だ。 Section A：ここは理工学部の中ではIIの語整序問題と並び比較的楽な問題。理工学部の他の大問と比べるとだが...。aやtheの冠詞、youなどの人称代名詞、接続詞、等位接続詞の並列関係、動詞の変化、時制などが頻出だ。今年度は前置詞が多く狙われたのが例年とは違う特徴。冠詞をいくつか問うのは珍しく、理工学部特有のものと言えそうだ。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
III		Section B : 文整序問題は4つや5つの文を並べた後に、その並べたものはいくつかの文から成る他の選択肢とどう並ぶかを問う2段階になっている。理工学部特有の問題だ。難しい専門用語のオンパレードで内容を正確に把握するのは非常に大変で、今回も結構読みにくい文章と言えそう。今年度の7は接続詞や代名詞の手がかりが結構あった。昨年は手がかりがほとんどなかったが、手がかりが結構あるのが理工学部の文整序問題の特徴と言えるので、例年に戻った感じだ。一方、8は手掛かりとなる代名詞や接続詞がやや少なかった。やはり一番最初に来る選択肢を見つけることが重要なのは当然だ。その際、主語が a(n)や oneなどを伴い不特定を表したり、疑問文だったり、Suppose などから始まる命令文であったりすることが多い。つながりを示す接続詞を含めて自分なりにいろいろ公式化してみるといいだろう。	難
IV	読解問題	レベルは昨年よりやや易化。どちらも読解問題。論理学や数学の話が多い。数学の知識が必要なことも多い。 Section A : 今年度は1と2のみ論理学の内容なのであろう。「次のどれが下の論証と同じ論理構造を持っているか？」のような独特な設問だ。ただ、3～4も理工学部らしい問題。「試験が木曜日の朝に移動すれば、次のどれが事実であろうか？」のような設問だ。情報処理能力を問うている設問とも言えそう。 Section B : こちらは例年ほど数学が必要ではない問題であった。Don: 214/854 = 25.1%のような数式らしきものはあるが、とりわけ数学の知識が必要ということにはなかった。表を見たり、簡単な数式を分析したりと複数の手がかりを素早く分析しないといけないという点では、共通テストをかなり難しくしたという感じの問題であろうか。レベルとしてはどちらも文系人間にはやや難だが、理系の人間にとっては標準と言えるのだろう。	標準  標準
V	単語定義問題	昨年同様、今年度も単語定義問題のみ。ただ、単語定義問題は昨年同様、15個とかなり多い。レベルは昨年並み。難しい単語はほとんど狙われていない。ただ、ひらめくのはなかなか大変なので、もし可能なら日ごろから英英辞書に触れるようにして、また単語をアウトプットする訓練も必要だ。当然ひらめかない単語もあるはずなので、5割程度で十分だと考え、あまり時間をかけないことが重要だ。おそらく配点は高くはない。今年度は function, tense, enrich, abrupt, emergence, privilege, conviction, currency, manual, prime, disposal, attribute, channel, inhibit, pose が狙われた。	やや難